

# FR 回線故障検知器

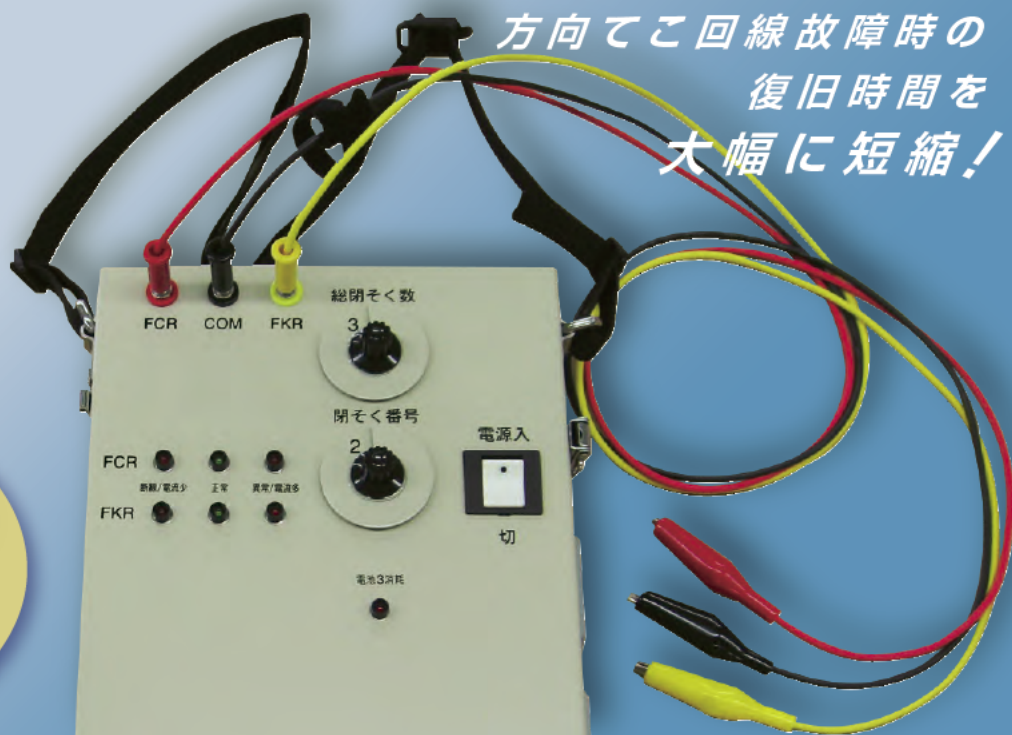
方向てこ回線故障時の  
復旧時間を  
大幅に短縮!

故障区間を正確に掴む

故障復旧時間の短縮

測定後の判断が容易

教育訓練に最適



## 概要

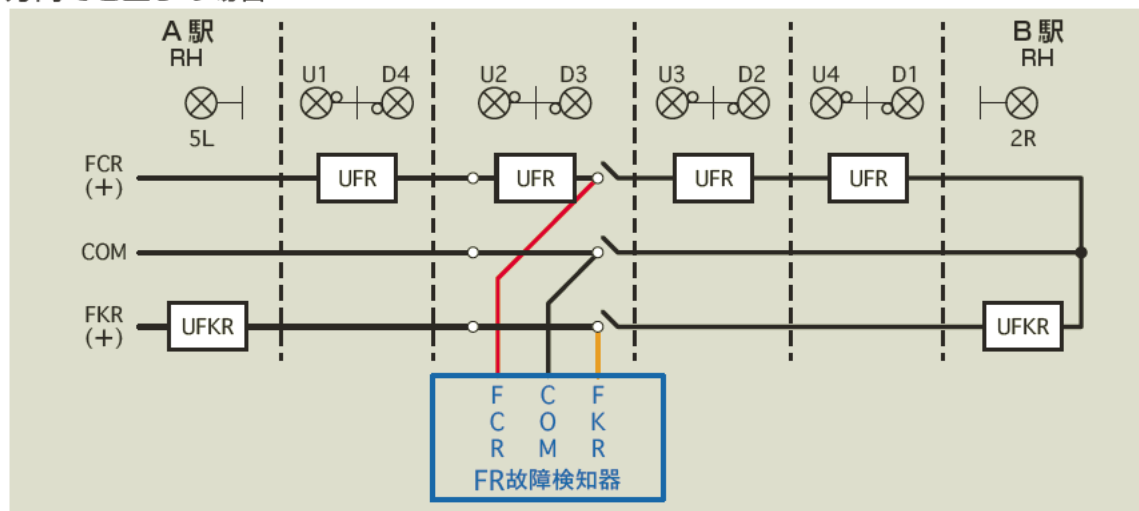
単線自動区間の方向てこ回線の障害復旧時に障害区間の絞り込みを行う際に使用する機器です。

内部に各線条リレーのコイル抵抗値に相当する抵抗を有し、その抵抗数をダイヤルにて設定することにより任意の箇所から方向てこ回線と等価の回路が構成できます。

方向てこ回線および検知器の使用法については以下に記します。

(下記の場合は総閉そく数: 4、閉そく位置: 2での調査の様子を示す。)

方向てこ上りの場合



- ① 検知器の総閉そく数を「4」に、閉そく番号を「2」に設定する。
- ② 閉そくBOXにて方向回線の下部方ケーブルを配線端子から開放し、FCR・FKR・COMの各端子に測定コードをそれぞれ接続する。
- ③ 検知器の電源SW「入」にするとFCR・FKRそれぞれの電流値により判定ランプが点灯する。判定は次の3通り。

電流少 (回線異常・回線断)	赤ランプ
電流値 (回線) 正常	緑ランプ
電流過多 (回線異常)	赤ランプ
- ④ ③の判定結果が正常な場合は電源と反対側のBOXに移動し再度調査を行う。  
異常の場合は電源側のBOXに移動し再度調査を行う。これにより障害箇所を特定していく。